韓国住宅の敷地内空地の認識に関する研究

A STUDY ON THE COGNITION OF THE OPEN SPACE WITHIN A SOUTH KOREAN RESIDENCE

金 奉 暲*¹, 鈴木 毅*², 小 浦 久 子*³, 木 多 道 宏*², 李 斌*⁴, 舟 橋 國 男*⁵

Bongkyung KIM, Takeshi SUZUKI, Hisako KOURA,
Michihiro KITA, Bin LI and Kunio FUNAHASHI

This research aims to clarify the definition of the open space, such as *Madang* and Garden within a South Korean residence. A survey consisting of 1195 South Korean subjects was conducted to analyze the physical, functional, emotional aspects of an *open space*. The survey suggested the definition of *Madang* and Garden slightly differed depending on the age group and the housing type of the subjects. 1) The older age groups, over 50 years old, had a tendency to acknowledge *Madang* as an essential feature of a South Korean residence, while perceiving the presence of a garden as unnecessary. 2) The definitions given by the subjects of a *Madang* illustrate strong traditional implications as well as their familiarity to the idea. The definition of a Garden insinuated an imagery of being green, beautiful, and classy. 3) A *Madang* was defined as a space for activities of a daily life, whereas Garden was defined as a space for rest and other activities involving greenery.

The broad definitions of open space given by the different age groups in this survey proposed the possibility of changing roles and/or configurations of an open space at a South Korean residence in future residential projects.

Keywords : *Madang, Garden, Open space, Cognition*

マダン、庭（庭園）、敷地内空地、認識

1. 研究の背景と目的

韓国の住宅は、1980年代からの急激な都市化により住宅の量的供給中心の政策が余儀なくされてきたが、1990年代に入ってからライフスタイルの変化に伴い、生活環境の質を高める方向へ進んでいる。その例として、街路環境の整備、町づくり運動、塀崩し運動などへの市民参加の動きなどが挙げられる。特に、1995年から私有地を囲んでいる塀を崩し、一般市民に公開する「塀崩し運動」¹⁾が、行政施設、公共施設、商業施設のみならず、一般住宅へも広がり、活発に行われている。しかし、韓国住宅にふさわしい敷地内空地についての十分な議論が行われていないまま、「塀崩し」が行われ、西洋的な風景が形成され、韓国的な町並みが崩れる可能性も無視できないと考えられる。さらに、塀崩し前後の変化の調査¹⁾によると、既存の敷地内空地の物理的な面での変化のみならず、敷地内空地に対する呼称も「マダン」²⁾から「庭園」²⁾へと変化する例が見られた。

韓国語辞書²⁾では、「マダン」は「家の周りの平たく均一な空き地」、そして、「庭」は「トル(庭)」と書かれており、「トル(庭)」を調べると、「家の中にある平たい地、「マダン」の古語」と書かれている。空間の呼称が変化するということは、空間の役割や性格などの空間の定義が異なることを示していると考えられるが、辞書における「マダン」「庭」の語彙的な差異は明確ではない。このような背景から、本研究では韓国住宅の中にある敷地内空地—「マダン」「庭」—の役割や機能を明確にするために、その空

間を意味づける内容を認識の観点から分析することを目的とする。

韓国住宅の敷地内空地あるいは屋外空間に関する既存の研究としては、集合住宅の屋外生活空間についての意識および行為研究³⁾や、韓国固有の敷地内空地である「マダン」の語意と特性についての研究⁴⁾、そして、「マダン」の機能と形態の変化に関する調査研究⁵⁾がある。また、李⁶⁾は、植民地時代の日本人向けの住宅である日式住宅を対象に、韓国住文化の持続と変容を考察し、「マダン」本来の機能の他室への移転、「マダン」のチョンウォン(「庭園」「庭」)化を指摘している。また、全⁷⁾は将来の韓国住宅の敷地内空地のあり方として、既存の「マダン」が日常生活に活用される役割を残しながらも、緑豊かな「庭園」的空間に変化する可能性について語っている。しかし、韓国の現代住宅に実存する敷地内空地について韓国人がどのように思い、空地の中ではどのような生活行為が行われているかを敷地内空地の種類別に調べた研究は未だに十分とは言えない。

本研究は、これらの視点に基づき、韓国人を調査対象として、韓国の現代住宅の敷地内空地の「マダン」「庭」などについて、韓国人の認識の中の敷地内空地の物理的な面⁸⁾、敷地内空地から感じられるイメージ的な面、敷地内空地における生活行為の面から調査を行い、考察する。

2. 調査の概要

本研究では、韓国人を対象に、韓国住宅の1階平面にある敷地内空

*1 大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻
博士後期課程・修士(工学)

*2 大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻
助教授・博士(工学)

*3 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻
助教授・博士(工学)

*4 大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻 助手・博士(工学)

*5 大阪大学 名誉教授・博士(工学)

Graduate Student, Department of Architectural Engineering, Graduate School of Engineering, Osaka University, M. Eng.
Assoc. Prof., Dept. of Architectural Engineering, Graduate School of Engineering, Osaka University, Dr. Eng.
Assoc. Prof., Dept. of Global Architectural Engineering, Graduate School of Engineering, Osaka University, Dr. Eng.
Research Assoc. Prof., Dept. of Architectural Engineering, Graduate School of Engineering, Osaka University, Dr. Eng.
Emeritus Prof., Osaka University, Dr. Eng.

図-1 敷地内空地に対する定義の模式図-年代別に区分 (下線の部分は該当年代別だけの意見)

表-1. 予備調査の調査対象者

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	8	24	26	3	0	13	74
女性	1	7	4	4	6	15	37
合計	9	31	30	7	6	28	111

表-2. 本調査のアンケート項目

区分	アンケート項目の内容	対象空地
物理的 面	・韓国住宅に必ずある空間である ¹⁾	「マダン」
	・空いている空間である	「庭」
	・大きな比較	「花壇」
	・街路からは見えなく閉鎖的である	「花壇」
イメージ面	・配置	「花壇」
	・ある程度の高さのある空間である	「花壇」
	・伝統性	「マダン」
	・高級感	「花壇」
生活行為面	・親しみ	「マダン」
	・美しい	「花壇」
	・必ず必要な空間	「花壇」
	・休憩	「マダン」
	・運動	「庭」
	・一人遊び	「マダン」
	・友達との遊び	「庭」
	・平床での話	「マダン」
	・家族と食事	「庭」
	・近所との話	「マダン」
	・接待	「庭」
	・ベンチでの話	「マダン」
生活行為面	・読書	「マダン」
	・散歩	「庭」
	・植栽栽培	「マダン」
	・野菜栽培	「庭」
	・植物観賞	「マダン」
	・動物飼育	「庭」
	・物干し	「マダン」
	・野菜乾燥	「庭」
	・キムチ作り	「マダン」
	・料理材料手入れ	「庭」
	・ジャンク台保管	「マダン」
	・通路	「庭」
生活行為面	・廃品保管	「マダン」
	・機械修理	「庭」
	・駐車	「マダン」
	・洗面	「庭」
生活行為面	・結婚式・葬式	「マダン」
	・家内行事	「庭」
生活行為面	・町内会	「マダン」
	・祈り儀式	「庭」

*1 「花壇」について設問した項目

地である「マダン」「庭」「花壇」²⁾の認識調査を行った。調査は、予備調査と本調査で構成され、予備調査を2003年10月に、本調査を2004年3月に行った。

予備調査では韓国人111名(表-1)を対象に「マダン」「庭」「花壇」の三つの単語と空欄のあるシートを渡し、これらの敷地内空地について説明してもらった。調査対象者に書いてもらった敷地内空地の説明文章には様々な内容が入っているため、KJ法³⁾を用いて、調査対象者の説明文を分類し考察した。その結果、「マダン」「庭」「花壇」に対する説明を30

表-3. 物理的空間構造、イメージに関する考察対象者の

現在の住宅形式と年齢の関係

区分	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
韓屋	13	8	13	3	4	2	43
洋屋	113	65	47	15	10	10	260
多世帯	84	48	48	14	7		201
アパート	231	130	168	82	24	4	639
その他	15	11	4	1	2	4	37
計	456	262	280	115	47	20	1180

無回答 15 名

表-4. 生活行為に関する考察対象者の現在の住宅形式と年齢の関係

		10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
マダン	韓屋	9	8	10	3	4	2	36
	洋屋	56	43	35	9	6	9	158
	多世帯	24	9	7	6	2		48
	アパート	11	11	22	13	4	1	62
	その他	3		3			4	10
	計	103	71	77	31	16	16	314
庭	韓屋	4	4	4	2	3	2	19
	洋屋	15	13	16	4	2	4	54
	多世帯	12	2	5	3	2		24
	アパート	4	10	14	9	4	1	42
	その他	2	3	2			1	8
	計	37	32	41	18	11	8	147

「マダン」のある住宅：無回答 6 名、「庭」のある住宅：無回答 1 名

代以下及び40代以上に分け整理し、図-1が得られた。

予備調査で得られた図-1の内容から、「マダン」「庭」について、共通項目である空地の物理的な面、イメージ的な面、生活行為の面の項目を、「花壇」については物理的な面の5つの項目を、さらに実際の韓国住宅の敷地内空地の写真⁴⁾9枚を用意し、写真の中の敷地内空地がどのような呼称で呼ばれるかを調べるための項目を入れ、本調査のアンケート調査表を作成した(表-2)。

アンケート調査表は韓国のプサン市とマサン市などの高校、大学、区役所、教会、一般会社へ合計1,906部を配布し、1,195部を回収(回収率:62.7%)した。分析において敷地内空地の物理的な面、イメージ的な面

では回答者 1,195 名を対象者に、かつ敷地内空地での生活行為の面では昔あるいは今に「マダン」「庭」での経験がある人^{注6)}以前の住まいに「マダン」のあった人 923 名、今の住まいに「マダン」のある人 320 名、以前の住まいに「庭」のあった人 577 名、今の住まいに「庭」のある人 148 名を対象にして行った。さらに、予備調査で年齢別に敷地内空地に対して異なるイメージを持っていたことが特徴的であった点から、本調査でも調査対象者を年齢別に区分し考察を行う。さらに対象者の今の住まいの種類別(住宅形式別)にその属性を分類し考察する。その概要については表-3、表-4に示す。

3. 敷地内空地の物理的な特性

この章は、表-2における敷地内空地の物理的な側面に関する考察である。5つの項目について得られた結果を、年齢別と現在の住宅形式別(韓屋^{注7)}、洋屋^{注8)}、多世帯住宅^{注9)}、アパート^{注10)}、その他^{注11)}の住宅)に分けて図-2と図-3に示す。

3.1 韓国住宅の中での存在性^{注12)}

韓国住宅に、当該敷地内空地が実際にあるかどうかを調べるため、「マダン」「庭」、「花壇」において「韓国住宅に必ずある空間である」という項目について尋ねた。「マダン」においてはおよそ 50% (「分からない」「無回答」の答えを除くと 56%) の人が、そして、「庭」は 244 名 (20.4%、「分からない」「無回答」の答えを除くと 25%)、「花壇」は 283 名 (23.6%、「分からない」「無回答」の答えを除くと 32%) が「韓国住宅に必ずある」と回答した。

年齢別に見ると、20代以上の過半数(特に60代以上においては75%以上の回答者)が、「マダン」の存在性について「そうである」と認識しているが、10代以下の若い世代は「そうではない」と認識している回答者が多かった(図-2の上)。「庭」や「花壇」については、年齢区分を問わずほとんど「そうではない」と評価した回答者が多かった。

そして、住宅形式別に見ると、「マダン」については韓屋、洋屋、アパート住まいの過半数の人が「そうである」と、「庭」と「花壇」については住宅形式別の区分を問わず「そうではない」と認識していた(図-2の下)。

高齢であるほど、また韓屋・洋屋に現在住んでいる人ほど、多くの回答者が「マダン」での経験があると考えられ、敷地内空地の存在性は当該空地での経験と関係があると考えられる。

3.2 敷地内空地のかたち

敷地内空地の大きさについて、予備調査では「マダン」>「庭」>「花壇」であるとの結果を得たが、さらに詳しく調査するため、本調査においても敷地内空地の大きさを尋ねた。単純集計で得られた結果を見ると、432名(37.9%)が「マダン」の方が大きいと認識しており、400名(35.1%)が「庭」の方が大きいと認識しており、「マダン」と「庭」の間には明確な差がないことが分かった(図-3(A)の左)。年齢別に見ると、40代、50代、60代以上の高齢者層の多くが「マダン」の方が「庭」より大きいと回答し、10代以下、20代の多くが「庭」の方が大きいと認識している。また、一戸建て住宅である韓屋と洋屋を比較すると、韓屋住まいの人は「マダン」>「庭」と回答した人が多く、洋屋住まいの人は「庭」>「マダン」と回答した人が多かった(図-3(A)の右)。伝統的な住宅形式である韓屋住まいの人と高齢者層の人が「庭」より「マダン」が大きいと認識していることが分かった。

また、「空いている空間」という項目については、年齢、住宅形式を問わ

図-2. 「韓国住宅に必ずある」の設問に対する認識

図-3. 敷地内空地の姿に対するイメージ

ずほとんどの回答者が「マダン」「庭」とも「空いていない」と回答し、日常的な活動のため品物や設備が置かれているためであると考えられる(図-3のB)。しかし、60代以上の回答者は「マダン」「庭」とも空いていると認識しているのが特徴的であった。これは敷地内空地で日常的な作業場、非日常的には結婚式・葬式などの家内行事、あるいは近隣行事などが行われたこと、すなわち、使うために空けておく経験のある人が高く評価した原因ではないかと考えられる。

次に、「敷地内空地は広い」の項目では、「マダン」については40代および60代以上の過半数が広いと回答したが、その他の年齢では明確な特徴が見出されなかった。また、住宅形式別においても同様であった(図-3のB)。「庭」については年齢、住宅形式を問わず、大抵の人が広くないと回答したが、10代以下の人の方が若干「庭」が広いと認識していた。

「敷地内空地は閉鎖的である」の項目では、「マダン」「庭」とも65%以上の回答者が閉鎖的ではないと回答していた(図-3のB)。

「地面の材質」についての項目では、「マダン」は土(全体401名35.1%)、セメント(328名、28.7%)の順となったが、10代以下、60代以上、および現在洋屋住まいの人はセメントと回答する人が多かった。「庭」は年齢、住宅形式を問わず芝生(590名55.0%)、土(327名、30.5%)の順となっていた(図-3のC)。そして、「花壇」は年齢、住宅形式を問わず、全体の804名(72.6%)の回答者が土と回答した。

「マダン」「庭」と「接する室内空間」としては、年齢・住宅形式を問わず、過半数が居間(韓国語ではゴシル, 거실)と回答した。(図-3のD)

以上より、「マダン」「庭」の認識上の物理的な面では、年齢別・住宅形式によって認識のしかたが異なることが分かった。高齢者であるほど、また現在韓屋住まいの人であるほど、「マダン」の存在性に対する認識が高く、「マダン」は「庭」より大きく、空いていて、広く、閉鎖的ではない空間として認識されている。しかし、年齢が若くなるほど、また、現在洋屋住まいの人であるほど「庭」は「マダン」より大きくなるなど、同じ韓国人であっても敷地内空地に対する認識には差異が見られた。

3.3 「花壇」の物理的なイメージ

「花壇」の位置は、年齢・住宅形式を問わず、敷地内の建物と塀の間の塀沿い(424名、38.8%)、「マダン」の内部(306名、28.0%)、「庭」の内部(194名、17.8%)の順であった。この結果から、「花壇」は、「マダン」「庭」に含まれる、敷地内の建物と塀の間の空地に、木と花などの植栽のために設けられた空間として認識されていると考えられる。また、年齢、住宅形式を問わず「花壇」は狭いと認識している回答者が多かった。「花壇」の高さについては、年齢・住宅形式を問わず、多くの人が「それほど高くない」と回答し、予備調査と異なる結果となった。以上より、「花壇」の物理的な空間構造については、植栽のために設けられた、狭く、低い空間として認識されていることが分かった。

4. 敷地内空地のイメージ

本章では、予備調査で「当該敷地内空地から感じられる」とされた単語(伝統性、親しみ、こじんまり感、高級感、緑が多い、美しい、必要性)を用い、どの程度そう感じるかを5段階(1:非常にそうではない、2:ややそうではない、3:普通、4:ややそうである、5:非常にそうである)で評価してもらった回答を考察する。本文中の()の中の数字は、各項目の平均値である。

「伝統性」については、全体的に「庭(値;2.91)」より「マダン(値;3.93)」から伝統性を感じる回答者が多かった。特に40、50、60代以上など高齢者ほど、そして現在韓屋住まいの人であるほど、「マダン」から伝統性を感じることが多かった。「親しみ」を見ると、「庭(値;3.58)」より「マダン(値;4.09)」から感じる人が多く、高齢者ほどその傾向は強かった。また、60代以上の人と現在韓屋住まいの人は「マダン」からも、「庭」からも親しみを感じ、「親しみ」と敷地内空地の経験有無に関連があることを示唆していると考えられる。「こじんまり感」について見ると、「マダン(値;3.65)」が「庭(値;3.38)」より若干高く、60代以上の人だけは「マダン」からこじんまりしていると感じる回答者が多くあるのが分かった。「高級感」については、多くの人は「マダン(値;2.50)」より「庭(値;3.52)」の方から高級感を感じると評価した。さらに、「マダン」から親しみ感じた40、50、60代以上の人は逆に「庭」に高級感をあまり感じないということも分かった。「緑が多い」については、「マダン(値;3.56)」より「庭(値;4.05)」から緑が多いと感じる人が多く、年齢・住宅形式別にあまり差がないことも分かった。「美しい」という項目では、「マダン(値;3.40)」より「庭(値;4.05)」の方が美しいと感じる人が多く、特に60代以上の人だけは「マダン」「庭」とも美しさに高く評価したのが特徴的であった。「韓国住宅に必要である」という項目では「マダン(値;3.69)」が「庭(値;3.29)」より若干高く、60代以上の高齢者であるほど、現在韓屋と洋屋住まいの人ほど、韓国住宅で敷地内空地が必要であると感じていることが分かった。以上より、韓国人は「マダン」からは伝統性、親しみ、こじんまり感を感じ、「庭」からは高級感、緑が多い、美しさを感じるということが分かった。特に高齢者であるほど「マダン」からの伝統性や必要性についてのイメージを強く感じることで、そして、若い人や集合住宅住まいの人は敷地内空地に対する必要性を低く感じる傾向があった。

5. 敷地内空地における生活行為

本章では、予備調査で明らかになった敷地内空地での生活行為から、30種類(表-2の生活行為面)を選択し、これらの生活行為に関する結果について考察する。また、調査した生活行為の項目について、昔と今の「マダン」「庭」でどのように変化したか、「マダン」と「庭」で行われる生活行為の差異、さらに、これらの生活行為を年齢、居住歴別、住宅形式別に分けて、考察する。

5.1 昔と今の敷地内空地での生活行為の変化

本節では、「マダン」「庭」での昔と今の生活行為がどのように変化してきたかを把握するために、昔と今の住まいの中に「マダン」「庭」のある住宅を対象にした。敷地内空地で行われる生活行為は当該空地の機能と性格を規定しているため、この変化を考察することで、敷地内空地の昔と今の機能や性格の変化を明確にすることができると考えられる。表-2の30項目の生活行為を7つ-休憩・運動(休憩、遊び、運動)、会話関係(平床やベンチでの話、接待など)、趣味関係(植物や野菜の栽培、植物観賞など)、家事関係(キムチ作りや物干しなど)、通行(駐車、通路)、洗面、非日常生活(結婚式、町内会など)にグループ分けし、考察する。

表-5から分かるように、「マダン」「庭」のある住宅は昔に比べ65.3%、78.6%と減っていったが、敷地内空地で行われる生活行為は昔より、「マダン」では73.4%、「庭」では83.6%と減っており、生活行為の減少比率は敷地内空地の存在比率よりもっと大きいのが分かった。

表-5. 敷地内空地の減少比率と総生活行為数の減少比率

	マダン			庭		
	昔	今	減少比率	昔	今	減少比率
対象住宅数	923	320	65.3%	557	148	78.6%
総生活行為数	10671	2287	73.4%	5305	872	83.6%

図-4 は「マダン」「庭」での生活行為の内容を詳しくグラフで表したものであるが、すべての生活行為について「マダン」「庭」とも昔の方が今よりその数が多かった。そして、「マダン」の方が「庭」より生活行為が多く行われており、「マダン」では家事関係の行為に、「庭」では趣味関係の行為に集中していることが分かった。

次に、昔の「マダン」で行われる生活行為は家事関係→休憩・運動→趣味関係→会話関係の順であったが、今の「マダン」では、家事関係→趣味関係→休憩・運動→会話関係であり、「マダン」は家事関係の生活行為が行われる空間として説明できると考えられる(図-5 の上)。かつ、昔の「庭」では、趣味関係→家事関係→休憩・運動→会話関係の順であったが、今の「庭」でもその順序は変わっていないことから「庭」は趣味関係の行為が行われる空間と説明できる(図-5 の下)。特に「マダン」での家事関係と通行行為、「庭」での趣味関係の生活行為は、総生活行為数から見ると、昔より今の方が増加していることが分かった。

これらの結果から、「マダン」「庭」で行われる生活行為の数は昔より減っているが、主に行われる生活行為として、「マダン」では家事関係の行為、「庭」では趣味関係の生活行為が昔から今へと変わりなく継続しており、敷地内空地の中で行われる主な生活行為として当該空地の機能や役割を説明できると考えられる。

5.2 「マダン」「庭」での生活行為

本節では、現在の住まいで「マダン」「庭」があり、各空地で行われる今の生活行為を対象に、年齢、居住歴、住宅形式別の特徴を明らかにする。図-6は、生活行為を各属性別の人数で除して、表したグラフである。

年齢別の生活行為を見ると、「マダン」では家事関係の生活行為に、「庭」では趣味関係の生活行為に集中しているのが分かった(図-6(A))。また、各生活行為について年齢別の著しい差異は見られないことから、3、4章で語った敷地内空地の存在性や、必要性など敷地内空地から感じられる様々なイメージについての評価が低かった若い世代の回答者も、実際の生活行為は高齢層の回答者と比べ少なくないことを示唆していると考えられる。

居住歴別の生活行為については、「マダン」では家事関係、「庭」では趣味関係に集中しており、居住歴の長さ別に偏りなく、大きな差異は見られなかった(図-6(B))。

住宅形式別の生活行為については、「マダン」では家事関係、「庭」では趣味関係に集中しているが、住宅形式別に行われる生活行為に大きな差異は見られなかったが、韓屋住まいの回答者が「マダン」での生活行為に他の住宅形式より若干多く回答しているのが分かった(図-6(C))。

これらの結果から、「マダン」では家事、「庭」では趣味関係の生活行為に回答者や住居の属性を問わず集中しており、主に行われる生活行為として規定できる。そして、各生活行為に対して、その行為を構成する各々の属性別には差がなく等しく分布していることが分かった。

図-4. 敷地内空地で行われる生活行為の昔と今の変化

図-5. 各生活行為の昔と今の比率変化

図-6. 年齢・居住歴・住宅形式別「マダン」「庭」での生活行為

図-7. 年齢別、性別、住宅形式別、居住歴別
敷地内空地で行われている生活行為

図-7 は、回答者の属性別に明確ではなかった生活行為の差異を詳しく見るために、「マダン」「庭」で行われる生活行為の差が 10% 以上である行為がどの空地で行われるかを明らかにするために作った図である。全体的に「マダン」で行われる生活行為の方が「庭」より種類、量ともに多かった。また、運動、家事の一部、通路は主に「マダン」で行われる生活行為として位置づけることができた。そして、40 代、60 代以上、居住歴が 5 年未満、15～20 年、現在の住まいが韓屋の回答者は他の属性の回答者に比べ、「庭」よりも「マダン」を多く使用していることが分かった。

5.3 アパート住まいの人の敷地内空地での生活行為

韓国における代表的な集合住宅である 5 階以上のアパート住まいの回答者のうち、敷地の中に「マダン」「庭」があると回答した人を対象に敷地内空地での生活行為について考察した。調査対象者 1,195 名の内、アパート住まいの人は 644 名であり、その中で「マダン」があると回答した人は 9.8% の 62 名、「庭」があると回答した人は 6.5% の 42 名で少なかった。しかし、10% 程度のアパート住まいの人であっても、大勢の人と一緒に使う空地を「マダン」「庭」として使っている事実は無視できず重要であると考えられる。

「マダン」がある人のそこでの生活行為を見ると、駐車が最も多く、次いで廃品保管、運動、休憩の順になった。また「庭」がある人のそこでの生活行為は植栽と植物の観賞など緑に関係する行為、ベンチでの話、休憩の順であった(図-8)。

6. 写真の呼び名について

本章は、韓国人のイメージの中の敷地内空地が実際の空間でどのような呼称で呼ばれるかを、写真を用いて調査し、考察した。アンケート調査

図-8. 5 階以上のアパート住まい人の敷地内空地での生活行為

図-9. 写真の呼称と地面の材質・置物

に用いられた 9 枚の写真は、韓国住宅の形式— 伝統韓屋、洋屋—、そして、地域— 農村部、都市部、郊外部— などの基準で選んだものである。9 枚の写真の呼称として、「マダン」「庭」、「その他」を選んでもらい、選んだ回答をグラフ化した(図-9)。さらに、図-9 の右側に空地の写真の地面の

材質や置かれているものを分類した。

写真1～5の呼称は「マダン」、写真6～9の呼称は「庭」となり、明確に分類された。地面の材質を見ると、「マダン」と回答された写真には土、セメント、タイルが、「庭」と回答された写真はすべて芝生になっていた。さらに、置物を見ると、呼称が「マダン」である写真では洗濯物干し台やジャンドク台など植物以外のものが多く置かれていたが、呼称が「庭」である写真では植物やベンチが置かれていた。また、植物に関してみると、呼称が「マダン」の写真では、植木鉢や高木が植えられており、植木鉢は動かすことができ、高木の下では人の活動が可能であるので、「マダン」におけるこれらの植物は人々の生活行為に制約を加えないものと考えられる。

このように、呼称が「マダン」である空間と、呼称が「庭」である空間の間には、地面の材質、置かれているものの面で比較的確な差異が認められたが、呼称が「マダン」である写真3～5は「庭」と答えた回答者、そして、呼称が「庭」であった写真6は、「マダン」と答えた回答者も20%以上見られることから、視覚的な面で「マダン」か「庭」か明確ではない要素が入っていると考えられる。「マダン」と呼ばれた写真3～5にはよく整理された植木鉢、盆栽、花壇などが目立ち、「庭」と呼ばれた写真6には道路沿いに自動車が見られ、空地の奥には布団が干されているなど、敷地内空地の呼称と地面の材質や置物などの要素にはある関係性が存在すると考えられる。

7. まとめ

本研究では、韓国住宅の敷地内空地である「マダン」「庭」などについて、韓国人の認識の中の敷地内空地に対する物理的な面、イメージ的な面、敷地内空地で行われる生活行為の面、そして呼称の点から調査し、考察を行った。全体的に「マダン」「庭」に対する認識は年齢別に、住宅形式別に差異があり、敷地内空地での昔と今の生活行為、そして「マダン」と「庭」の主な生活行為に差があることが分かった。具体的な内容は以下のよう

にまとめられる。

(1) 韓国人の認識の中の物理的な面を見ると、「韓国住宅に必ず存在する」の項目では、高齢者であるほど、現在の住宅形式が韓屋・洋屋であるほど「マダン」は「韓国住宅に必ずある空間」として認識して傾向があり、「庭」「花壇」については年齢・住宅形式を問わず「そうではない」と認識している回答者が多かった。そして、年齢や住宅形式別に「マダン」「庭」についての大きさ、広さ、閉鎖性についての認識に差異が見られた。

(2) 「マダン」「庭」についてのイメージの面を見ると、「マダン」からは「伝統性」「親しみ」「こじんまり感」「必要性」を感じ、高齢者と韓屋住まいの回答者でその傾向が強かった。そして、「庭」からは「高級感」「緑の多さ」「美しさ」「必要性」を感じるが、年齢と住宅形式別の差はないのが特徴的であった。「マダン」から感じられる内容に高齢者と韓屋住まいの回答者が特性のある傾向を見せることから、当該敷地内空地の経験の有無と感じられるイメージには深い関係があることを示していると考えられる。

(3) 「マダン」「庭」のある住宅は、昔に比べ大幅に減少しており、空地中の生活行為の総数はさらに大きな比率で減少しているのが明らかになった。そして、「マダン」「庭」での生活行為を比べると、「マダン」の方は「庭」の2倍程度の生活行為の数が見られ、韓国人は「庭」より「マダン」で

多くの生活行為を行うことが分かった。敷地内空地で行われる主な生活は当該空地の機能や性格を説明する点で見ると、「マダン」では家事関係の生活行為、「庭」では趣味関係の生活行為が昔から今へと変わりにくく続けられているのが明らかになった。かつ、まとめの(2)で述べた敷地内空地に対するイメージの評価は各属性別に異なっていたが、実際の敷地内空地での生活行為は属性別に偏りなく行っているのが分かった。

(4) 実際の敷地内空地の写真を用い、その空間の呼称を調査、考察したところ、「マダン」と呼ばれた敷地内空地の要素としては、土、セメント、タイルの地面、物干し台や水道など作業のためのものが置かれている空間、植木鉢や盆栽、低木などの緑が挙げられていた。そして、「庭」と呼ばれた敷地内空地には、芝生の地面、高木や低木が植えられていた。敷地内空地の外見(特に、地面の材質、置かれているもの)とその空間の呼称は深い関係があることを明確にした上で、敷地内空地のあり方を計画すべきであると考えられる。

本研究では、「マダン」「庭」「花壇」の韓国住宅の敷地内空地について韓国人がどう認識しているかを明らかにしたが、今後の課題として、実際の韓国住宅における敷地内空地の使い方について調査を行い、さらに詳細に敷地内空地の役割と機能を明確にする必要があると考えられる。

【補注】

- (1) 「マダン」という空間は韓国固有の住宅にある敷地内空地である。
- (2) 「庭園(정원)」は、日本語の「庭」に該当する韓国語の単語である。以下の本文では「庭」という言葉で表記する。
- (3) 本研究で書かれている「物理的な面」は、韓国住宅の配置図、入り口、塀の位置の示す図をデータとして分析したものではなく、敷地内空地の大きさや、地面の材質などその形を理解できる項目についての表現である。
- (4) 本研究では、韓国住宅の敷地内空地の一つとして、「マダン」「庭」とはその役割や機能が異なる「花壇」も調査対象に入れて調査を行い、考察をした。
- (5) アンケート調査に用いられた敷地内空地の写真は、敷地内空地の構成要素を、CGなどを用い段階的に表現したものではないが、地域や住宅形式の多様性を重視して選んだものである。
- (6) 生活行為の面で「花壇」を対象から除外したのは、図-1の敷地内空地についての説明の中で、「花壇」で行われた生活行為は数や内容の面で非常に少なかったためである。
- (7) 韓屋は、西洋式建物に対し、韓国固有の建築様式で建てた建物を指す。
- (8) 洋屋は、植民地時代から現れた住宅で、西洋式で建てた建物を指す。
- (9) 多世帯住宅は、韓国の共同住宅のうち、4階以下の建物1軒当たり建築面積が660㎡以下の住宅を指す。
- (10) 韓国の中でアパートは、5階以上の共同住宅を指す。
- (11) その他の住宅形式には、ビラ、社宅などがある。
- (12) 本論文の中で、韓国住宅の中に各種の敷地内空地があるかないかを「存在性」と呼ぶ。

【参考文献】

- 1) 金奉暻、小浦久子(2003年)、敷き際の開放による「マダン」の変容と生活空間に及ぼす効果に関する研究、平成14年度都市計画論文集日本都市計画学会、11月、p.1117～1122
- 2) ハングル学会、われわれ言葉大きい辞書(1992年)、語文閣
- 3) ベク・ヘソン、朴・ヨンギ(2002年)、共同住宅団地内外生活空間に対する居住者意識調査および利用行態分析研究、大韓建築学会論文集計画系18巻12号、p.91～97
- 4) 曹卓植(1996年)、「マダン」の語意と超越的な特性に関する研究、大韓建築学会論文集計画系12巻2号、p.91～97
- 5) 金成柱、金鍾仁(1996年)、「マダン」の利用と変容、大韓建築学会学術発表論文集16巻1号、pp.53～56
- 6) 李賢姫(1994年)、韓国の「日式住宅」に見る住文化の持続と変容-日本の長屋との比較文化的考察-、東京大学大学院工学系研究科博士学位論文
- 7) 全現美(2001年)、韓国都市の住居集合環境における屋外空間の構成と評価に関する研究、大阪大学大学院工学系研究科博士学位論文
- 8) 川喜田二郎(1970年)、続・発想法、中公新書

(2004年6月10日原稿受理、2004年11月25日採用決定)